



進路だより

平成29年7月20日
＜第7号＞
いわき支援学校くぼた校
進路指導グループ

～前期現場実習を終えて～

校内実習

1年生全員と、2,3年生の一部が2週間、実習に取り組みました。実習内容はラッピングバッグの製作、ビルクリーニング、ウエス作り、コネクター部品の組立を行いました。

1年生にとっては初めての実習。2週間という期間がとても長く感じられたことと思います。でも、続けて行うからこそ、それぞれの課題も見えてきたのではないのでしょうか。校内実習評価表をもとに、それぞれの課題について、振り返ることができるといいですね。

産業現場等における実習

2年生の一部と、3年生全員が校外での実習に取り組みました。それぞれ、時期や期間は異なりますが、今の力にあった場所で実習ができたかと思います。一部にはなってしまいますが、実習の様子について写真でご紹介します。



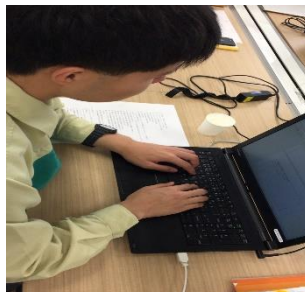
スポンジで汚れ落とし



部品組み立ての様子



○勿来ランドリー：タオルたたみ



○さんしゃいんクレハ：PC



○いわき希望の園：部品組立



○創造空間：段ボール組立

～実習から見えたくぼた校生の課題～

①あいさつ、返事ははっきりと！

自分からあいさつができる生徒は多いのですが、声が小さかったり、下を向いているために相手にうまく聞こえなかったりすることが多いようです。あいさつはコミュニケーションの大切なツール。周りの人と気持ちよく仕事をするために、日ごろから相手の顔を見て、気持ちを込めてあいさつができると良いですね。



「あいさつは顔を見てはっきりと」

②ほう（報告）れん（連絡）そう（相談）は恥ずかしがらずに！

仕事中にわからないことがあったり、失敗してしまったり……。そんな時、自分から話しかけることが難しい生徒が多いようです。確実な仕事をするために、不明なことははっきりさせて、安心して仕事に取り組むようにしましょう。



「指示されたら「はい」の返事」

～進路懇談会を終えて～

前期の産業現場等における実習、校内実習の評価をもとに、進路指導担当も参加して個別に懇談会を実施しました。お忙しい中、御出席をいただき、ありがとうございました。

1学年には3年間をかけて、どのように実習に取り組んでいけばよいかをお話しさせていただきました。保護者の方からは後期の実習に向けての悩みが聞かれました。2, 3学年には進路に向けた具体的な話し合いをさせていただきました。

現場実習報告会でも話をさせていただきましたが、人任せにしていては望み通りの進路を実現することはできません。本人の考えを聞き取りながら、学校と家庭が連携して進めていければと思います。



～いわき市障がい者相談支援センターと

教育相談事業所との使い分けについて～

4月当初に文書でお知らせいたしましたように、いわき市では、今年度から障がい者相談支援体制が以下のように変わりました。

～昨年度まで～

- ◎各種相談・情報提供について
 - 各地区保健福祉センター
 - いわき市委託相談支援事業所（地区別）
- ◎サービス利用に伴う計画相談について
 - 計画相談支援事業所

～今年度より～

- ◎各種相談・情報提供について
 - 障がい者相談支援センター（地区別）
 - 各地区保健福祉センター
- ◎サービス利用に伴う計画相談について
 - 計画相談支援事業所

昨年度まで、地区保健福祉センターと相談機関が、別々に存在していたのが、今年度からは、各地区保健福祉センター内に各種相談・情報提供を担当してくれる相談支援機関が、同じ場所（支所内等）に設置されたことが大きな特徴です。各種相談と行政手続きが同じ場所にあることで包括的な支援体制が構築されたといえます。

ところで、昨年度までの地区別の委託相談支援事業所は、各種相談・情報提供を行う一方で、計画相談支援も行ってきていました。特にくぼた校がある勿来地域においては「いわき地域療育センター」さんが、小名浜地域においては「せんとらる」さんが、各種相談・情報提供から計画相談に至るまで、一手に引き受けていただいていたおりましたが、今後は、切り離して考えていく必要があります。

そこで、今後は以下のような観点で相談機関を使い分けていく必要があります。

ア：障がい者相談支援センター（地区別）

困り事や新しいサービスを受けたい場合等、初動的な相談についての相談窓口

イ：計画相談事業所

受けたいサービスと事業所が明確になってから計画を作ってもらうための相談窓口

現在、新規で計画相談支援事業所にお願いするのが難しいとよく耳にします。B型事業所利用に伴うアセスメントを行う際など、自分が相談できる計画相談事業所をしっかりと押さえておくことが望まれます。